

避難所 運営ゲーム

災害時の行動力を身につけよう!

みなみだいしちゅうがっこうくちいききょういっくかいぎ おとなかいぎ 2025年11月18日
 (火)、大師小学校体育館にて開かれました。今年度は、避難所運営
 について学ぶための防災研修として「HUG (避難所運営ゲーム)」
 を実施いたしました。「HUG」は、静岡県が開発したカードゲー
 ムの研修で、実際の避難所を想定しながら様々な条件でどのよ
 うに避難所を運営していくかを体験的に学ぶものです。グループで
 課題に取り組むことにより、防災に対する意識を高めていざという時の行動力につなげることを



目的としています。研修では、大師小・四谷小・南大師中の
 グループに分かれてそれぞれの学校の体育館や校舎の間取りを
 想定して避難者を受け入れていきました。断水や停電の条件の
 中、様々な課題を抱えた人が次々とやってきます。高齢者や赤
 ちゃんのいる家族、障害のある方、車で来る方、ペットを連れて
 方、遠方から来た旅行者など。お互いに少しでも快適に過ごせる
 ように避難所のどこにどうやって受け入れていくか、参加者
 全員で知恵を出し合いながらすすめていきました。もしも実際に
 災害が起きて避難所が必要になった場合にはどんなことに気を
 付けるべきなのか、イメージを広げることができた研修でした。
 災害は起こらないに越したことはないですが、日頃から備えてお
 くことが大切であると改めて感じました。

【大人会議に参加した皆さんの感想を紹介します】

○以前からやりたかった内容で興味深く参加させて貰いました。リアルに近い想定が多く、すごく学びとなります。判断と指示、いろいろな意見が出て対応に追われ、あせり、混乱してくる。準備できるものは先に準備しておくことと、誰が積極的に仕切るか決めることが重要。この訓練を積むことでリアルな対応力が身につくと感じた。多種多様な要望や状況に応じる難しさがあった。いろんな人が体験すべきだと思いました。体験が非常時に役立つと思います。(住民委員)

○地域の方と相談できてとても良い時間でした。その内容は本番の時には活かしていきたい。(地域教育コーディネーター)

○HUG をするのは初めてでした。けが人や病気などさまざまな事情があって皆さん避難されていて、安心して避難所で生活するには実際に避難所になる学校をどのように使用するかを事前に考えておく必要があると思いました。(地域教育コーディネーター)

○個人情報承諾など避難所運営に必要なものは市でルールを決めてリストにしておいて欲しい。地域内で運営が統一されているほうが相談などしやすいと思いました。事前に問題点が分かって良かったです。(地域教育コーディネーター)

○学校には多様な特別教室や空間・施設・設備があるので、効率的に場所を充てていけば本来であれば需要に応えられるはずだと気付きました。一方で、実際には時系列的に追われる各イベントの対応で、効率的に場所を割り当てるのは難しいのだらうと思えます。だからこそ、今回のような避難所運営ゲームを通して有事を想定し、災害時に地域住民が安心して避難できる環境を整備することが大切だと感じました。(南大師中教諭)

○四谷小チームの皆様と一緒に考えることで「より良い避難所」をつくる疑似体験ができたことに感謝いたします。避難所開設運営のノウハウ以前の知識が自分に足りないことを痛感する機会となりました。(四谷小教諭)

○実際に災害が起きてからでは、この様な対応をすぐに来れないと思うので、災害が起きる前にシミュレーション出来ることは良かったと思います。今回だけでなく、何回も体験してより良い避難所運営が出来るようになればと思っています。(大師小PTA)

○思わぬイベントが発生するので、事前にある程度想定して場所を割り振っておかなくてはいけないなと思った。実際に災害が発生した際は悩んだり立ち止まったりする時間がない中で場所を割り振っていかなければならない事を学んだ。いつ発生するか分からない事だからこそ、事前準備が大切になってくると思いました。(大師小PTA)

○色々な問題を抱えている人がいて割り振りが難しかった。実際の避難所開設する時に、色々な所に注意しながら運営をしなければいけないと思いました。今日の「HUG」ゲームで自分の防災への意識が少し変わりました。(大師小PTA)

○いつ起こるか分からない大災害、みんなが混乱し通常の生活ができない中、どんどん人が避難してくる中を誰がどうやってさばいていくのか。どんな支援が必要で、対応できるのか。とても頭を使いました。人のことや世帯のことが分かる地域のひと、避難先となる学校を知るひとと協力しながら振り分けていくことが大切だと感じました。(大師小PTA)